

幹細胞再生医療とインプラントは似ている!?

文 長也寸志

text by Yasushi Cho

“再生”を促す“幹細胞”

幹細胞再生医療はこれからの医療を変え、未来のスタンダードになつていくのか。それとも、限られた人々のためだけの医療法として終わるのか。まさに今、重要な岐路を迎えています。

幹細胞再生医療が一般の方々にも広く浸透するためには、先月お話しした培養器のフルオートメーション化をはじめ、治療費の適正化も一つの重要な指標です。しかし、それと同じく数的裏付けのあるデータを蓄積することも不可欠であると、私は考えています。

そろそろお忘れの方もいらっしゃるかもしれませんが（笑）、私は歯科医です。これまでの経験則上、歯科治療であるインプラントが一般化する過程と、幹細胞再生治療はよく似た経過を辿るのではないかと思つているところなのです。

約30年前にインプラントが日本で普及し始め、マスコミを通じて多くの方の耳や目に入るようになった頃、マス

コミも同業の歯科医たちも、こぞってインプラントを批判しました。当時、非常に高額だったインプラントは、自費治療であることも相まって「儲け主義」「危険なトンデモ医療」と嘲し立てられたのです。今では信じられないことですが、全国の大病院の9割以上がアンチ・インプラントを標榜していました。

そんな逆境の中にあつたインプラントですが、現在では安全性も広く知られ、ごく一般的な治療法として選択可能です。これはひとえに、当時から研究にかかわつてこられた先生方が粘り強く治療に取り組まれ、臨床データを示してきた結果と言えるでしょう。

再生医療も、革新的であるが故にインプラントのような逆風を受ける可能性があると私は考えます。だからこそ、根拠のあるデータを示し続け、大学とコラボレーションして学術研究の取り組みを進めているのです。

また、インプラントの普及に向けて私が行った取り組みの一つに、価格の適正化がありました。医療に限らず、質の良いものの黎明期は高額ですが、真に良いもの、社会に必要とされるものは、必ず価格の適正化を経て生き残っていきます。日本の宝・幹細胞再生医療を守るためにも、歯科医として得た経験を活かし、奮闘する日々です！

Profile

医療法人社団 友志会 理事長
1987年3月 福岡歯科大学 卒業
1987年4月 福岡歯科大学病院保存科 入局
1989年6月 長齒科医院 開設
1994年8月 新地八口一齒科診療所 開設
1996年 医療法人社団友志会 設立
2007年8月 翼八口一齒科・内科診療所 開設

